

学校図書館支援センター通信 NO.141 2月号



令和元年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

第3回学校図書館研修会

1月28日（火）、司書教諭、学校司書、幼稚園ネットワーク担当を対象に「第3回学校図書館研修会」が行われました。今年度は、文部科学省委託研究協力校の第七中学校と、「第35回関東地区学校図書館研究大会」にて実践発表を行った菅野小学校と須和田の丘支援学校に実践発表をしていただき、小・中・特別支援学校と幅広い校種の実践を共有することができました。また、昨年度に引き続き、会場入口には各学校の展示コーナーを設け、生徒達の作品など、実物を手に取ってみる事ができました。授業で実際に使用している資料があり、どれも参考となる資料でした。



第七中学校

「主体的・文語的で深い学びに向けた授業の在り方を探る」
～学校図書館を活用した授業実践～

菅野小学校

「よりよい図書館活動をめざして」
～子どもたちに本を届けるために～

実践発表の冒頭、司書教諭 齋藤千津先生より、「学校図書館教育の実践を重ねる中で、『人が入ると本は生きてくる』との思いが強くなり、様々な「人」の力を借り、学校図書館の実践を行ってきました。」という話がありました。その話の通り、実践の多くは、司書教諭と学校司書が連携を図りながら行っていました。また、校長先生による全学級に向けた読み聞かせ、校内の先生方への働きかけなど、「人」が関わる実践が印象的でした。このように多くの先生方が関わることで、子供たちが本を手にとる第1歩になると齋藤先生はおっしゃっていました。また、司書教諭として、授業実践を重ね、若年層教員へ発信していくことの大切さも話してくれました。

須和田の丘支援学校

「心を豊かにし、暮らしを広げる」
～環境整備と授業支援を通して～

司書教諭 野口由紀子先生より、司書教諭として取り組んだ3年間の実践を発表してくださいました。

子供たちが本を探しやすくするために、まずはじめに学校図書館の整備から取り組みはじめたそうです。次に、「本に触れる段階」「本の面白さを知る段階」「本を学習で活用する段階」の順に段階を踏み、「見る・聴く・読む・触れる・動作化する等、さまざまな感覚を使って本の活用につなげることを大切にしながら、実践を積み重ねていました。

【紹介された読むための手助けグッズ】

- ・大きな文字の漢字辞典・リーディングルーペ
- ・リーディングトラッカー・白黒反転印刷・音声録音ペン
- （中央図書館にある図書資料）
- ・大きな文字の青い鳥文庫、LLブック、布絵本



図書館の窓から



～ひろげよう！図書館の輪・リレー執筆～



本校では毎年12月の初めに学校行事として、縦割り活動を通して、協力・信頼・責任感の醸成と絵本の世界を楽しみながら、表現力の育成を図る目的で「ひばりまつり」が行われます。

縦割りのリーダーとなる6年生が中心となり、絵本を基にした劇の台本作り、役の割り振り、衣装・小道具作り、演技の仕方などを先生と考えたり、下級生と一緒に劇を作ったりします。

図書委員はそれぞれの劇に合わせて、クイズを出したりもします。当日はたくさんの保

護者、地域の方々も来校くださり、さぞかし緊張するものと思いますが、子供たちは毎年のことで慣れたものようです。みんなそれぞれが自分のグループの劇を見事に演じ切り、他のグループの劇を真剣なまなざしで鑑賞している表情を見ると、様々な学びがあることを実感します。そして絵本の世界に浸ることができ、その後の読書にもつながる学校行事だと思います。

【市川市立稲越小学校 学校司書 高橋 直美】

文部科学省委託事業のまとめ ～事業委員会～

2月21日（金）、今年度の文部科学省委託事業に関わる事業委員会を開催しました。今年度も事業委員長を帝京大学 教授 鎌田和宏先生にお引き受けいただき、協力校である第七中学校の1年間の取組を中心に、今年度の調査研究の振り返りを行うことができました。また、市川市学校図書館アドバイザー小林路子先生、校長会代表 市川市立曾谷小学校校長 野口敏樹先生より、ご講評いただきました。

野口校長先生からは、「学校体制の下、計画的に取り組んでおり、永年の調査研究が学校の財産となっていること」、「学校図書館を活用するとどのような力が身につくか生徒たちに教えている点や、教科横断的な取り組みを共同研究として取り組むことができていること」などについて評価していました。

小林先生からは、第七中学校が全校体制で教科横断的な視点について考えることができた要因として、「毎年行っている校内研修会」と「情報カードなどのツールの共有」を挙げていました。担当する教科を超えて取り組む学校図書館活用の研修会やパターン化された調べ学習の方法など、若年層教員でも挑戦できる環境が整っている点が優れている点であるというお話を伺いました。

鎌田先生から、「市川市の良い点は、情報を探し出す能力と評価を熟考する能力の育成に向けて、子供たちが楽しみながらやっていることである」というご助言をいただきました。「問題発見能力」は、教科書をベースに応用力をつけていく必要があり、コンパクトに繰り返し行っていくことが大切だそうです。市川市は、読書環境が豊かであり、活字になれているということが強みであると教えていただきました。

また、第七中学校が作成した「教科関連表」について、教員が教科のつながりを意識することで、生徒たちへ声かけができ、生徒自身が教科同士をつなげて考えることができるようになるということです。

提出物のお願い

以下の書類は、3月10日（火）が、提出締切となっております。計画的に準備を進めてくださいますようお願いいたします。また、押印省略をお願いいたします。

- ①学校図書館活用授業時数調査 ②学校図書館チェックリスト ③学校図書館活用実態調査

カリキュラムマネジメントのための教科関連表

上記の表は、第七中学校が今年度作成した「教科関連表」の一部です。すべての教科に対応した関連表になっています。

教科横断的な視点をもって、授業を進めることができるように工夫されています。

『学校図書館支援センター通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。

市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4

TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352

<http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html>

